

教科	科 目	単位数	学年・クラス
商業	ビジネス基礎	2	2年 地域探究コース（選択）

1 使用教材

使用教科書	ビジネス基礎 新訂版
出版社	TAC 出版
副教材等	
出版社	-

2 学習の目標

(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
学習状況の観察	B	B	A	発表、振り返りシート
提出物	C	B	A	毎時間の課題（ノートプリント・計算タイム・問題集）
ペーパーテスト・成果物	A	A	C	定期考査・学期毎の最終成果物
検定試験	A	B	C	全商ビジネス計算実務検定、全商商業経済検定

※表中の A・B・C は評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学期	・ 商業の役割と社会・産業課題の関係を理解する。 ・ 環境・エネルギー・食料などの社会課題とビジネスの関係を事例で学ぶ。 ・ 生産・流通・金融の動向や課題、産業構造の変化とビジネスへの影響を理解する。 ・ ビジネスにおけるコミュニケーションの意義と基本スキルを学ぶ。 ・ 身だしなみ・挨拶・電話対応など基本的なビジネスマナーを学ぶ。 ・ 情報の信頼性を見極めと知的財産権の重要性を理解する。 ・ 生産要素・経済活動の循環・価格決定の仕組みなど経済の基礎を学ぶ。 ・ 流通の役割と生産・消費の関係を理解する。	・ 商業の学習のガイダンスとしての役割も担っており、さらに卒業後の進路や職業について考える学習活動を取り入れる。 ・ ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的・協働的に取り組む態度を養う。 ・ ビジネスを主体的、合理的に行う上での望ましい信頼関係を構築することの意義及び職業人に求められる倫理観、遵法精神、規範意識、責任感、協調性、リーダーシップ、ビジネスを通して社会に貢献する意識、見通しをもって仕事を進める意識などが信頼関係を構築するうえで重要であることを扱う。 ・ 企業活動における情報の重要性、必要な情報の所在及び調査を通して情報を入手することの重要性について扱う。
2 学期	・ 卸売業・小売業の機能と小売業の変化を学ぶ。 ・ 物流・金融・保険・情報システムの仕組みと役割を学ぶ。 ・ 企業形態や組織の特徴、意思決定の流れ、業務改善の方法を学ぶ。 ・ 起業家精神やビジネス創造、企業倫理の重要性を理解する。 ・ マーケティングの基本と流れ、資金調達の方法と責任を学ぶ。 ・ 財務諸表の役割や会計情報、監査の重要性を理解する。 ・ 税の種類や申告・納税の仕組みを学ぶ。 ・ 日本の雇用の特徴や多様化、福利厚生など企業の責任を理解する。	・ 中学校（公民）で学習したことを踏まえ、経済の基本概念などの知識を基盤に、組織の一員としての役割を果たすことができるように位置づける。 ・ 情報技術の進展に伴う流通の効率化と最適化、電子商取引についても扱う。 ・ 経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案できるよう、具体的な事例を通して扱う。 ・ 企業活動の動向など科学的な根拠に基づいて、企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるように位置づける。 ・ それぞれの企業の活動について、関連する商業科目とのすみわけをはかりつつ、その導入として位置づけ、具体的な事例と関連付けて扱う。
3 学期	・ 売買契約の条件・締結から履行までの流れと、各種決済手段（通貨・小切手・手形・クレジットカード）の仕組みを学ぶ。 ・ 記数法・概数・概算・端数処理や、そろばんの歴史など計算の基礎を学ぶ。 ・ 商品価格・割引・利益率・利息・為替・株式・債券などビジネスに必要な各種計算を学ぶ。 ・ 身近な地域のビジネス課題を分析し、地域の発展との関係を考察する。 ・ 地域のビジネス動向を踏まえ、特色を生かした振興策を考える。	・ 売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を基盤として、契約の締結と履行について組織の一員としての役割を果たすことができるように位置づける。 ・ 生徒の実態に応じて適切な計算用具を活用することができるように位置づけ、操作に習熟する学習活動に偏らないように留意する。 ・ 身近な地域のビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に取り組むよう、発表する学習活動などを取り入れる。

